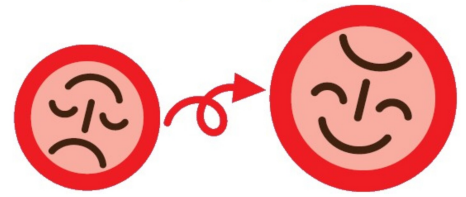


参議院議員

 ネクスト防衛副大臣
 ネクスト拉致担当副大臣
 元財務副大臣

ふじた幸久



スマイル 茨城

「TPP本年度合意は困難」と米国議員が語る

日米韓議員会議で、昨年11月に200名近い米国の国会議員が、大統領が、議会の承認を受ける前に通商交渉などを決める「ファースト・トラック(追い抜き)法」に反対する書簡をオバマ大統領に送った経緯と背景を質問しました。すると米国の4名の与野党の下院議員(写真左)から以下の答えが返ってきました。

「議会でホワイトハウスを信頼する議員がほとんどいなくなった。現職の上院議員であったオバマ大統領が、しっかりと上院とお話をしなかったことに加え、下院の様々な手続きや運営の仕方を知らずに事を進めてしまった。かつてはクリントン大統領のNAFTAやWTOなどのように、議会に丁寧に説明していたのが、オバマ大統領は情報を開示せず、透明性に欠けている。「悪魔は詳細なところに宿る、と言うではないか」。元々国内の様々な政治問題から目を外に向けてTPPを使ったし、2012年の下院の中間選挙にも利用しようとした。しかし、もう選挙も終わったので、今積極的に進める意味が無い。むしろ、今年は秋の中間選挙など選挙の年になるので、今年の成立は無いと思う。大統領が口では言っても実質的に動かないからだ。来年提出することになるのではないかと。民主党の下院議員の半分程が反対したが、労働条件の低下に反対する議員達と、海外企業の米国内への浸透に反対する議員達である。」

以上の内容を、本日国会で開かれたTPPを慎重に考える会とTPP阻止国民会議の勉強会(写真右)で報告しました。



特定秘密保護法案が可決

昨年12月、残念ながら参議院本会議で特定秘密保護法が可決されました。色々なことが明らかになりました。

12月5日の委員会の強行採決を止めようと、私は中川委員長の後ろから採決しないよう声をあげていましたが、怒号で委員長の声が聞き取れない状況にありました。実際議事録でも、速記者は「聴取不能」と書いています。つまり、委員会では成立していません。

又さいたま市で強行開催された公聴会の三人の参考人のお二人が自衛隊のOBでした。地方公聴会は最低4日前には告知し、参考人や傍聴者を募るというルールを破って前日の夜6時に決めるという乱暴を決めたのでした。それ以上に、情報の観察組織を官房長官が12月5日の委員会で初めて提案した直後に強行採決でしたので、本当の中身が審議されないまま強行採決となったのです。

これから施行までの間、国民の皆様と粘り強い戦いを続けて参ります。

唯一の核廃棄物処分場

12月13日にフィンランドのオンカロを視察しました。小泉純一郎元首相が訪問した世界で唯一の核廃棄物の最終処分場です。地下420mの坑道に酸素ボンベなどを携帯して入りました。地下2キロ四方にいわゆる核のゴミを埋め込み、10万年間密閉した状態に置く計画です。——地震が無く岩盤の国フィンランドだから可能、では済まされない、日本が学ぶべき以下の点がありました。①地盤・環境調査と地元の支持、政府によるサイト決定と議会承認、地下特性調査と建設許可という30年にわたる緻密なプロセス②核廃棄物はそれを出した企業が処分するという原則や、廃棄物の再処理や輸出入の禁止の決定③原子力規制機関（STUK）に対する国民の信頼が絶大で、STUKが認めるなら大丈夫という国民の支持④オンカロを運営する電力会社は、「市民に原発の内部を全て見せて市民自身の目で判断してもらおう」という方針の下に、透明性のある情報開示を徹底一です。

フィンランドは、福島第一原発事故後、これまでに認めた2基以外は原発を新設しない方針を決めました。オンカロで処理できる廃棄物は9千トンに過ぎず、世界41カ国で廃棄物の最終処理ができない「トイレなきマンション」状態が続きます。10万年とはプルトニウムをはじめとする核廃棄物中に含まれる長寿命の放射性物質が無害となる期間です。これまで1万年以上存在した建造物は無いとも言われ、人類や科学が核を管理することの困難さを実感しました。フィンランドの国会議員も、「将来は再生エネルギーに移行するが、それまでの中間的方法として原子力が必要だ」と述べました。

10月の茨城論壇で小岩井忠道氏が小泉元首相の言動について述べたように、大多数の国民の意見を政策に反映した、原発の責任ある将来を決定すべき時が到来したと考えます。並行して、重大事故対応など福島原発事故で得られた経験を含む日本の原発管理技術を海外諸国のためにも役立てるべきです。前述のフィンランドの経験から学ぶことはたくさんあると思います。

「報道ステーションSunday」に出演

1月26日朝10時からのテレビ朝日「報道ステーションSunday」で、藤田幸久のビデオ・インタビューが放映されました。

沖縄県民の反対が強く、工期が長く、コストも高く、自然を破壊する辺野古沖に代わる、ベターな普天間基地の移設先案の実現に向けて、軍事アナリストの小川和久さんと行動した事実を語りました。



国会見学と 国政報告会のご案内

国会見学は数名からでもお受けします。

国政報告会は、ご自宅でのミニ集会も大歓迎です。



ポスターを 貼らせてください

茨城県全域でポスター掲示をお願いしています。



壁や塀、
駐車場、田
畑などでポ
スター掲示
頂ける方を
ご紹介くだ
さい。

ふじた幸久 プロフィール

初の国際NGO出身国会議員。
スマトラ・ハイチ地震援助など
世界51カ国を訪問。

1950年 日生生まれ
二葉幼稚園～会瀬小～茨城大学付属中
水戸一高～慶應大学文学部卒業
難民を助ける会と国際MRA協会理事

1996年～衆議院議員当選(2期、東京)
2003年～民主党国際局長
2007年～参議院議員当選(2期、茨城)
2008年～参議院拉致問題特別委員長
2009年～民主党国際局長
2010年～参議院財政金融委員長
2011年～財務副大臣
2013年～参議院財政金融委員長
参議院国家基本政策委員長

現在～
ネクスト防衛副大臣、
ネクスト拉致担当副大臣